

ヘブル人への手紙
イントロダクション
2026年1月8日

○書かれた時期と背景

<歴史>

- ① エルサレム攻囲戦：66A.D.よりユダヤ人のローマへの反乱軍がエルサレムに立てこもる。そして70A.D.のローマ軍からの攻囲戦によりエルサレム陥落が陥落する。
- ② 64A.D.ローマの大火：皇帝ネロが錯乱しローマの町を燃やし、その後、「その犯人はクリスチャン達である」として大迫害がはじまる。

<書かれた時期>

- ・手紙の内容より、①の前、また②の前の時代ではないか。
- ・また、ローマ人への手紙、ガラテヤ人への手紙からの引用。出だしがコロサイ人への手紙 1:15-20 に似ていることより、その時代あたりに書かれたのではないか。

↓

60-63A.D.くらい？→不明

○手紙の特徴

- ・新約聖書の中で最も文学的に洗練されたギリシャ語であるとの評価。
- ・高度なレベルでの旧約聖書からの神学的考察と理論展開。

○手紙の書き手

不明→ギリシャ語を高い学術的文章で使え（多分ローマ在住?）、旧約聖書知識とヘブル語に精通したユダヤ人。
可能性→パウロ、パウロの弟子、アポロ、バルナバ?

○手紙の受け取り手

ユダヤ教から改宗したユダヤ人クリスチャン。ローマからの迫害、同胞のユダヤ人からの裏切り者としての迫害を受けている。（ヘブル 10:32-34）

○手紙を書いた目的→ヘブル 10:35

信仰を捨てるな!!

○手紙のテーマ

- ① イエスの絶対的至上→「とにもかくにもイエスが最上、最高権威!!! すべてはイエス」
- ② 旧約のすべてはイエスのことを指している→旧約の祭司職はイエスの予型であり、捧げものの儀式はイエスの十字架の予型 etc...

- ① の神学的説明より、ローマの迫害で信仰を捨てるな。
- ② の神学的説明によりユダヤ教ユダヤ人の迫害で信仰を捨てるな。と困難の中、信仰を保つ危機の中にいる手紙の受け取り手のユダヤ人クリスチャンを励ます。